

施策名：未来技術社会実装事業

内閣府地方創生推進事務局都市再生・未来実装班
03-6206-6175 g.mirai.s5m@cao.go.jp

分野	未来技術の活用による地方創生の推進	総合戦略該当箇所	横2-1-(2)- i	予算額	非予算
-----------	-------------------	-----------------	-------------	------------	-----

特徴・ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 未来技術を活用して地域課題の解決を目指す取組を支援。 ✓ 関連する事業を一つにパッケージ化し、複数の関係省庁を交えた地域実装協議会にて総合的支援。 ✓ 今後3年間で一部実装、5年間で本格実装（事業化され自走すること）を見込む事業を対象。
----------------	--

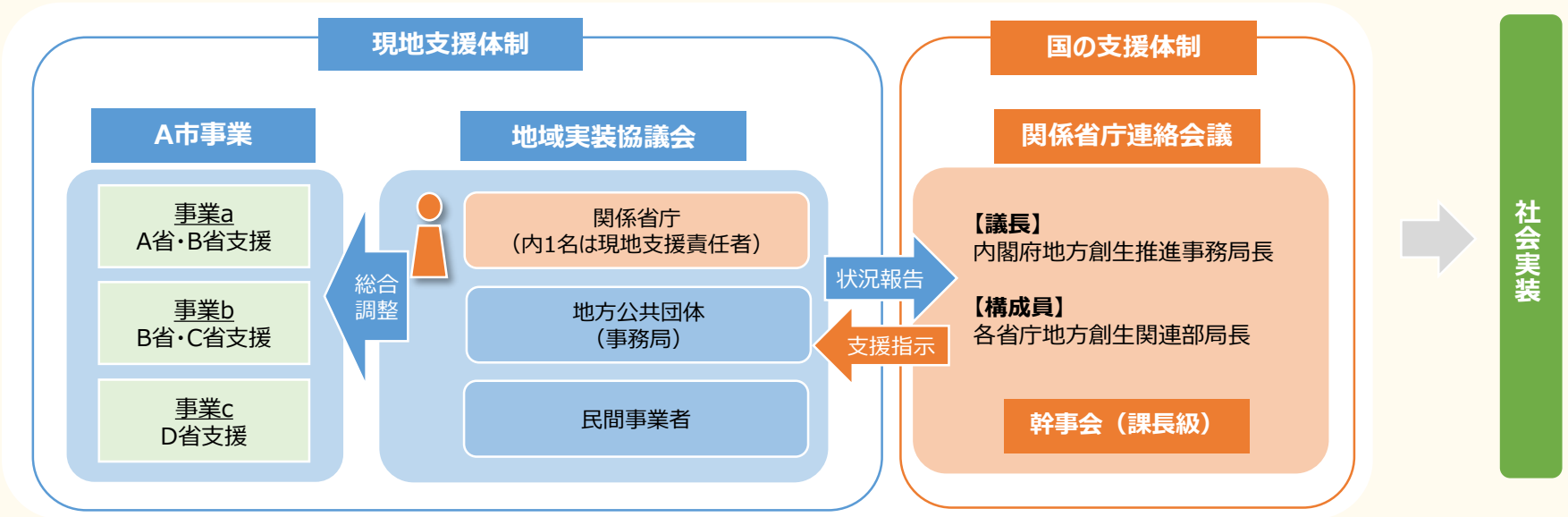
目的	<ul style="list-style-type: none"> • AI、IoTや自動運転、ドローン等の未来技術や科学技術研究の成果等、最新の知見等を活用し、産業の生産性向上やインバウンド観光への対応、公共交通の維持・改善、住民の健康保持、子育て支援や未来を担う人材の育成等、様々な課題を解決し、地方創生に繋げていくこと。 	概要	<ul style="list-style-type: none"> • 未来技術を活用した新しい地方創生を目指し、地方創生の観点から、革新的で先導性と横展開可能性等に優れた地方公共団体からの提案について、社会実装に向けた関連事業の現地支援体制（地域実装協議会）を構築し、関係府省庁による総合的な支援を行う。
-----------	---	-----------	---

<期待される効果>

・関係省庁による総合的な支援を通じた、地域における未来技術の社会実装の実現。

<対象事業のイメージ>

詳細



活用事例

事例① 北海道・岩見沢市・更別村



ロボット農機（無人トラクター）による
4台協調作業実証試験（岩見沢市）



ドローンセンシング実証実験（更別村）

- ✓ 道内の一次産業従事者が減少・高齢化しており、生産の維持や労働力不足の解消が課題。
- ✓ 生産の省力化や効率化のため、北海道に一定の集積がある農業用機械製造業やIT産業等における未来技術への対応力の強化が必要。
- ✓ 上記課題を解決するため、「ロボット農機（無人トラクター）の遠隔監視による無人走行システム」や「農薬や肥料の散布ソフト（アプリ）とドローン技術」などの社会実装を通じて、一次産業の生産性や付加価値の向上と周辺産業への波及を推進。

事例② 愛知県春日井市



AIオンデマンド乗合サービス実証実験



ゆっくり自動運転実証実験

- ✓ 日本3大ニュータウンである「高蔵寺ニュータウン」の高齢化率は約35%と増加傾向（R2.4月時点）。また、坂道や起伏が多い地理的特性により、高齢者等の外出機会の減少が懸念。
- ✓ ニュータウン内の基幹交通である路線バスの運行本数は、ピーク時（H7）と比較し約3/4にまで減少。
- ✓ 上記課題の解決に向け、「地域住民との協働によるラストマイル型ゆっくり自動運転」、「交通事業者との連携によるAIオンデマンド乗合サービス」等の社会実装を通じて、新たなモビリティサービスと既存交通とのベストミックスの構築に向けた取り組みを推進。